Miscellaneous Notes on Japanese Pteridophytes (2)

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2019-12-05
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00056344

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

芹沢　俊介*　：日本産シダ植物雑記(二)

Shunsuke SERIZAWA*: Miscellaneous Notes on Japanese Pteridophytes (2)

6. 新学名7件

昨年夏に日本産シダ植物のチェックリストを作成したが、それに伴ないいくつかの新学名が必要になった。

オキナワカナワラビ *Arachniodes okinawense* は，沖縄本島のヤクカナワラビ系のシダに対し、中池（1969）によって与えられた名称である。沖縄本島のヤクカナワラビは、確かに葉質がやや厚くて硬いことと，小羽片が丸味を帯び比較的長い柄を持つことで特徴づけられる。しかし、琉球列島のヤクカナワラビ群は地理的な形態の変異が著しく，屋久島，奄美大島・徳ノ島，沖縄本島，西表島の4地域で，それぞれ形態の異なる集団に分化している（芹沢，1977）。このような一連の変異の中でとらえれば，オキナワカナワラビは独立種ではなく，ヤクカナワラビの変種として扱われるべきものである。

ムサシシケシダ *Lunathyrium japonicum* var. *musashiense* は，最初大場（1966）によりシケシダの変種として記載されたシダである。しかし，このシダは形態的にはシケシダとセイタカシケシダの中間の性質を持ち，胞子も不定形で，両種間の自然雑種と推定される（芹沢，1973）。属名の *Deparia* への変更に伴ない，このシダの学名も属名と階級を変更しなければならない。

アツバキノボリシダ *Diplazium aphanoneuron* は，大井（1956）により独立種として記載され，田川（1962）によりキノボリシダの変種とされたシダである。このシダは通常キノボリシダと混生しており，それから羽片がやや狭く，葉質がやや厚く，葉脈が裏面で目立たないことで区別されるが，他の点ではキノボリシダと異ならない。中間型が少なくないことから考えても，キノボリシダの品種として扱うのが適当であろう。

サツマクジャク *Diplazium × satsumense* は，倉田（1968）によりミヤマノコギリシダとニセコクモウクジャクの雑種として記載されたシダである。ところが，倉田はニセコクモウクジャクをコクモウクジャクの変種として扱っており，私もこの見解に賛成である。そうなるとサツマクジャクは，命名規約上ミヤマノコギリシダ×コクモウクジャクと推定されるオワセシダの nothomorph として扱われなければならない。

カズサイノデ *Polystichum polyblepharum* var. *scabiosum* は，倉田（1962）によりイノデの変種として記載されたシダで，葉の中軸背面の鱗片が幅広いことが特徴である。中軸背面の鱗片の形は，小石川植物園にあった胞子から育てたという株でも同じであったので，一応安定した形質と思われる。しかし，このシダは鱗片の形以外の点ではイノデと区別できず，個体数も千葉県三石山桑ノ木沢で数株発見されているだけでごく少ない。分類群としては品種の階級のものであろう。

リュウキュウミツデウラボシ *Crypsinus longisquamatus* は，田川（1934）によりミツデウラボシに近縁の新種として記載されたシダで，根茎の鱗片が長いことが特徴である。しかし，ミツデウラボシの鱗片の長さにはかなり変異があり，その鱗片の長いものとリュウキュウミツデウラボシの鱗片の短いものを比較すれば，両者の間にそれほど著しい差はない。鱗片以外の点では，ミツデウラボシに比べ葉質がやや厚く裂片も幅広い傾向があるが，はっきりした区別点にはならない。結局のところリュウキュウミツデウラボシは，伊藤（1939）や初島（1971）のように，ミツデウラボシの変種として扱うのが妥当であろう。

イズクリハラン *Neocheiropteris ensata* var. *izuensis* は，倉田(1962）により命名された，クリハランの葉の側脈が斜上し，その間隔も狭い一型である。ところが，クリハランもミツデウラボシと同様相当多型な種類で，側脈の出る角度や間隔にはかなり変異がある。イズクリハランの特徴は確かにはっきりしていると言えばはっきりしているが，クリハランに見られる変異の延長線上のものとも考えられる。静岡県河津町大鍋に一群落が知られているだけということも考えあわせると，品種以上のものとは思われない。

7. アイヒメワラビ（新称）

ヒメワラビ類は，3～4回羽状に切れ込んだ卵形の大形の葉を持つヒメシダ科の中の一群である。日本本土にはヒメワラビとミドリヒメワラビの2種が分布しており，前者は葉が黄緑色で，羽片や小羽片は斜めにつき，比較的多数，小羽片は細く，披針形で基部が細まり，羽軸に沿着する傾向が強く，後者は葉が鮮緑色，羽片や小羽片は比較的少数でややまばらにつき，終裂片と共に直角に近い角度で開出し，小羽片は幅広く三角状広披針形，小羽片の柄はより目立つ。

＊愛知教育大学生物学教室　Department of Biology, Aichi Kyoiku University, Kariya-shi, Aichi 448.

アイヒメワラビはこれら２種の間の雑種と推定されるシダで，形態的にはほぼ両者の中間の性質をそなえており，ヒメワラビからは小羽片が三角状披針形で基部が狭くならず，その柄も明瞭であることで，ミドリヒメワラビからは小羽片が細く，より多数つき，小羽片や裂片は葉身基部でもやや斜めにつくことで区別できる。胞子のうは不稔性でほとんど裂開せず，したがって胞子のう群は黄色になるだけで古い葉でも形がくずれない。葉の色はヒメワラビより緑に近く，ミドリヒメワラビよりは黄色を帯び，野外で識別する際にはよい手がかりとなる。

本雑種ははじめ東京都町田市成瀬の丘陵地で1973年９月に採集したものである。この場所では杉林の下に１mを越すヒメワラビとミドリヒメワラビが混生していたが，その中に２株きわだって大きな個体があり，それが本雑種であった。基準標本に選定した葉は，葉柄が長さ65 cm，葉身が長さ105 cm，幅100 cmに達し，４枚続きの標本になっている。また，1977年10月に南谷忠志氏と宮崎県霧島山北麓のシケシダ類を採集してまわった時にも，本雑種を１株発見することができた。今後注意してヒメワラビとミドリヒメワラビの混生地をさがせば，おそらく各地で見つかるものと思われる。

図１ ヤエヤマコウモリシダ *Thelypteris* ×*pseudo-liukiuensis* (holotype)

８．ヤエヤマコウモリシダ（新称，図１）

琉球列島のコウモリシダ類は，ホシダ類との雑種と推定されるエラブコウモリシダを除くと，コウモリシダ，ホソバコウモリシダ，ヒトツバコウモリシダ，オオコウモリシダの３種１変種が知られている。これらのうち前３者は互いによく似ており，時には区別がやや難しいこともあるが，オオコウモリシダは根茎が短く，葉は互いに接近してつき，葉身は細長く，葉質はやや厚くてもろく，側羽片は４～５対に達し，互生，比較的狭い角度でつき，倒披針形で先端は尾状鋭尖頭，羽片基部には無性芽をつけ，生態的には川沿いの湿った岩上に多いことなどの特徴で，はっきり区別できる。

ヤエヤマコウモリシダはこのオオコウモリシダとコウモリシダの雑種と推定されるシダで，一見したところオオコウモリシダに似ているが，根茎は長く匍匐し，葉身は幅広く，側羽片はより接近してつき，最下のものを除き多少なりとも中軸に沿着し，しばしばほぼ対生することなどで容易に区別できる。標本ではコウモリシダやホソバコウモリシダに似た印象も受けるが，これらの種類とは側羽片基部上側に無性芽をつける点ではっきり異なる。また，側羽片は倒披針形に近く，発育のよい葉では上方のものもあまり小さくならず，葉質もやや厚い。無性芽は小さな葉でもよくついており，安定した特徴と思われるが，オオコウモリシダの無性芽に比べるとやや小さい。胞子のうは裂開するが，胞子は不定形である。最初1971年３月に西表島浦内川上流で採集したが，その後西表島各地で採集し，石垣島や沖縄本島でも見ることができたから，それほど少ないものではなさそうである。生育地はだいたい沢沿いの岩上であった。

なお，ヒメシダ科は近年HOLTTUMによって再検討され，多くの属に分割された。HOLTTUMの分類系によれば，ヒメワラビ類は*Macrothelypteris*属，コウモリシダ類は*Pronephrium*属となる。しかし，HOLTTUMが属として扱った分類群は他のシダの属に比べるとやや小さい単位であるように思われるし，日本産の種類についてだけ見てもエラブコウモリシダのような「属」間雑種が出てくる。そのようなわけで，ここではアイヒメワラビもヤエヤマコウモリシダも，広義の*Thelypteris* として記載することにする。

９．トガクシデンダとケンザンデンダ

トガクシデンダは，牧野（1904）により長野県戸隠山産の標本に基づき，*Woodsia yazawae* という学名で記載された植物である。*W. yazawae* の基準標本は東京大学理学部にも東京都立大学牧野標本館にも見当らないが，その記載文は確かに今日一般に

トガクシデンダと呼ばれているシダとよく一致する。このシダは本州中部の主として石灰岩地に生育しており，葉は葉柄を含めて長さ5～20cm，葉身は披針形で二回羽状深～全裂，羽片は長卵形～卵状三角形でややまばらに裂片をつける。一方ケンザンデンダは，同じく牧野（1914）により *W. tsurugisanensis* として記載された種類で，四国剣山山頂附近の石灰岩地に産する。

この両者の関係について，CHING（1932）はFAURIEが八ヶ岳で採集したトガクシデンダをケンザンデンダと同定し，更にそれらは中国大陸北部の *W. hancockii* と同一種であると考えた。それに対して田川（1936, 1937, 1959）は，ケンザンデンダは *W. hancockii* であるが，トガクシデンダはユーラシア北部や北米北部に広く分布する *W. glabella* と同じものであるとした。田川は両者の区別点として，トガクシデンダは鱗片が全縁で包膜はほとんどその中心まで毛状に細裂するが，ケンザンデンダは鱗片の辺縁に小歯牙があり，包膜は不規則に5～6裂すると述べている。ところが，実際に本州中部の植物と四国の植物を比較してみると，本州中部のものでも鱗片にはしばしば小歯牙がでる。トガクシデンダの原記載にも，scales……irregularly subdenticulate と書かれている。包膜の状態もほとんど異ならない。葉の切れ込みや羽片の形にも，特に異なるところはない。また，これらの植物は確かに *W. hancockii* から区別できない。しかし *W. glabella* は，牧野（1904）もトガクシデンダの記載の際に比較しているように，羽片が小さく，その切れ込みも浅く，これらとは異なるものである。結局のところ，トガクシデンダとケンザンデンダは同じものであり，*W. yazawae* は *W. glabella* ではなく *W. hancockii* の異名ということになる。両者をまとめた和名としては，より古いトガクシデンダを使用するのがよいであろう。

6. **Arachniodes amabilis** (BL.) TINDALE, Contr. N. S. Wales Nat. Herb. **3**: 90 (1961).

var. **okinawensis** (NAKAIKE) SERIZAWA, stat. nov.—*Arachniodes okinawensis* NAKAIKE, Journ. Geobot. **17**: 61 (1969). —*Arachniodes amabilis* TINDALE: HATUSIMA, Fl. Ryukkus 173 (1971), *p.p.*; SERIZAWA, Sci. Rep. Takao Mus. Nat. Hist. 8: 1 (1977), *p.p.*

Distr. Endemic to the Ryukyus (Isl. Okinawa).

Deparia × musashiensis (H. OHBA) SERIZAWA, comb. et stat. nov. —*Lunathyrium japonicum* var. *musashiense* H. OHBA, Sci. Rep. Yokosuka City Mus. **12**:29 (1966). —*Lunathyrium dimorphophyllum* × *L. japonicum*: SERIZAWA, Sci. Rep. Takao Mus. Nat. Hist. **5**:19 (1973).

Distr. Honshu, Shikoku and Kyushu.

Diplazium donianum (METT.) TARD. Aspl. Tonkin 58 (1932).

form. **aphanoneuron** (OHWI) SERIZAWA, stat. nov. —*Diplazium aphanoneuron* OHWI, Journ. Jap. Bot. **31**: 137 (1956). —*Diplazium donianum* var. *aphanoneuron* TAGAWA, Acta Phytotax. Geobot. **20**: 215 (1962); HATUSIMA, Fl. Ryukyus 186 (1971); SERIZAWA, Sci. Rep. Takao Mus. Nist. 8:9 (1977).

Distr. Kyushu (Isl. Yakushima) and the Ryukyus; also distributed in S. E. Asia.

Diplazium × owaseanum KURATA, Journ. Geobot. **10**:69 (1961), *pro sp.*

var. **satsumense** (KURATA) SERIZAWA, stat. nov. —*Diplazium* ×*satsumense* KURATA, Journ. Geobot. **16**:66 (1968).

Distr. Honshu and Kyushu.

Polystichum polyblepharum (ROEM.) PR. Epim. Bot. 56 (1849).

form. **scabiosum** (KURATA) SERIZAWA, stat. nov. —*Polystichum polyblepharum* var. *scabiosum* KURATA, Journ. Geobot. **11**: 38 (1962), Sci. Rep. Yokosuka City Mus. **10**: 31 (1964).

Distr. Honshu (Pref. Chiba).

Crypsinus hastatus (THUNB.) COPEL. Gen. Fil. 206 (1947).

var. **longisquamatus** (TAGAWA) HATUSIMA [Fl. Ryukyus 206 (1971), nom. nud.] ex SERIZAWA, stat. nov. —*Phymatodes longisquamata* TAGAWA, Acta Phytotax. Geobot. **3**:96 (1934). —*Phymatopsis hastata* var. *longisquamata* H. ITO, Journ. Jap. Bot. **11**:99 (1935), Bot. Mag. Tokyo **53**:28 (1939). —*Crypsinus longisquamatus* TAGAWA, Acta Phytotax. Geobot. **14**:193 (1952). —*Crypsinus hastatus* COPEL.: SERIZAWA, Sci. Rep. Takao Mus. Nat. Hist. 9:5 (1978), *p.p.*

Distr. Endemic to the Ryukyus.

Neocheiropteris ensata (THUNB.) CHING, Bull. Fan Mem. Inst. Biol. 4:109 (1933).

form. **izuensis** (KURATA et SATAKE) SERIZAWA, stat. nov. —*Neocheiropteris ensata* var. *izuensis* KURATA et SATAKE ex KURATA Journ. Geobot. **11**:5 (1962).

Distr. Honshu (Pref. Shizuoka).

7. **Thelypteris × subviridifrons** SERIZAWA, hybr. nov.

Thelypteris torresiana (GAUD.) ALSTON var.

calvata (BAKER) K. IWATS. × *Thelypteris viridifrons* TAGAWA

Ab anteriore lamina minus flavescenti, pinnulis deltoideo-lanceolatis distincte petiolulatis differt; a posteriore lamina plus minusve flavescenti, pinnulis angustioribus multioribus a costis plus minusve oblique divaricatis differt.

Hab. Honshu. Pref. Tokyo: Naruse, Machida-shi, alt. ca. 70m (S. SERIZAWA no. 19346, Sept. 23, 1973, AICH—holotype); ibid. (SERIZAWA no. 19347, AICH). Kyushu. Pref. Miyazaki : Kamishimauchi, Ebino-shi (S. SERIZAWA no. 27445, Oct. 14, 1977, AICH).

8. **Thelypteris × pseudo-liukiuensis** SERIZAWA, hybr. nov. – *Thelypteris liukiuensis* × *T. triphylla*: SERIZAWA, Sci. Rep. Takao Mus. Nat. Hist. 7: 53 (1975).

Thelypteris liukiuensis (CHRIST) K. IWATS. × *Thelypteris triphylla* (SW.) K. IWATS.

T. liukiuensi proxime affinis, sed rhizomate longe repenti, lamina latiore, pinnis saepe suboppositis praeter infimas plus minusve adnatis differt.

Rhizoma longe repens, 3-5mm crassum, squamis lanceolatis 4-5mm longis brunneis obtectum. Frondes subdimorphae, a se 1-3cm remotae. Stipes frondis sterilis 20-45cm longus ; stipes frodis fertilis 28-65cm longus. Lamina frondis sterilis 22-33cm longa 14-22cm lata pinnata, pinnis lateralibus 1-4-jugis generaliter suboppositis anguste rhombicus vel anguste obtrullatis 12-19cm longis 2.2-3.5cm latis apice caudato-acuminatis margine integris basi cuneatis vel subrotundatis gemmiferis, infimis breviter petiolulatis ceteris plus minusve adnatis; lamina frondis fertilis 15-30cm longa, pinnis minoribus et angustioribus quam pinnis frondis sterilis. Venatio meniscoidea. Sori lunulati, supra venulas transversales siti, exindusiati.

Hab. Ryukyus. Isl. Okinawa : Oku-gawa, Kunigami-son (S. SERIZAWA no. 14881, Aug. 21, 1971, AICH). Isl. Ishigaki: the upper stream of Miyara-gawa (S. SERIZAWA no. 20240, March 30, 1974, AICH). Isl. Iriomote: Mt. Goza-dake (S. SERIZAWA no. 14654, Aug. 7, 1971, AICH) ; ibid. (S. SERIZAWA no. 20002, March 24, 1974, AICH); Komi (S. SERIZAWA no. 32137, Dec. 28, 1980, AICH); Mt. Komi-dake, alt. ca. 90m (S. SERIZAWA no. 14678, Aug. 9, 1971, AICH -holotype, fig. 1); the upper stream of Urauchi-gawa (S. SERIZAWA no. 13381, March 11, 1971, AICH) ; Nakara-gawa (S. SERIZAWA no. 18028, March 30, 1973, AICH).

9. **Woodsia hancockii** BAKER, Ann. Bot. 5: 196 (1891); CHING, Sinensia 3: 137 (1932); TAGAWA, Acta Phytotax. Geobot. 5 : 252 (1936), 6: 256 (1937), Col. Ill. Jap. Pterid. 75, 261(1959). –*Woodsia yazawae* MAKINO, Bot. Mag. Tokyo 18: 132 (1904). – *Woodsia tsurugisanensis* MAKINO, Bot. Mag. Tokyo 28: 177 (1914). – *Woodsia glabella* auct. non R. BR.: TAGAWA, Acta Phytotax. Geobot. 5: 253 (1936), quoad pl. ex Honshu, 6 : 255 (1937), quoad pl. ex Honshu, Col. Ill. Jap. Pterid. 75, 261, fig. 135 (1959).

Distr. Honshu and Shikoku ; also distributed in Korea and N. China.

Received October 2, 1980

○ 高田 順：**秋田県植物分布図集 I** 秋田自然史研究会（〒010 秋田市八橋字田五郎82の４，振替秋田8193），1980. 12. 25発行。B５版，69頁＋カラー写真２頁。定価1500円（送料共）。

○ 池上義信（監修）・石沢 進（編集）：**新潟県植物分布図集 I** 発行所 コーエイ印刷株式会社（950 新潟市姥ヶ山1488-4，振替新潟5599），1980. 12. 10発行。21×30.5cm，178 頁＋モノクロ写真12頁。定価 3500円（送料500円）

府県単位の分布図集が時を同じくして，上記の２県で刊行された。前者ではシダ植物・裸子植物 166 種を１頁に４図づつ納めているが，この分布図では，秋田県を２万５千分の１地勢図に区切り，同一枠内に数ヶ所の分布地が知られていても１点をうつという方式である。次に後者では，50種を取扱っているが，この分布図では 100 万分の１の等高線の入った地図に分布地点が黒点でしめされ，これらの資料についてのデーターが記されている。

私も，本誌にラン科植物の分布図を連載したが，大変な労力を要することを，身をもって体験しただけに，両書の関係者の方々の御努力に対し，深甚なる敬意を表するとともに，以後の続刊を期待申し上げたい。しかし，一言つけ加えさせていただくが，私があつかった分布図から，ある種類では，ある産地において絶滅を招いた事実がある。前車のわだちを踏まぬことが肝要で，特に稀少種などでは，細心の配慮が必要である。（里見信生）